

## 平成27年度 第1回桑名市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成27年7月16日(木)  
開会 10時04分 閉会 11時40分

2. 開催場所 桑名市役所3階第2会議室

3. 出席構成員

桑名市長 伊藤 徳宇  
桑名市教育委員会  
教育長 近藤 久郎  
委員 大橋 昌宏  
委員 米田 真理  
委員 伊藤 茂一  
委員 松岡 守  
委員 稲垣 陽子

4. 構成員以外の出席者

(総務部)

総務部長 水谷 正雄  
総務部次長兼総務課長 岩崎 光司  
総務課課長補佐兼総務係長 満仲 弘

(教育委員会事務局)

教育部長 石川 昭人  
教育総務課長 山下 範昭  
指導課長 山川 真史  
学校教育課長 高木 達成  
人権教育課長 小森 和彦  
学校・園再編推進室長 山下 謙一郎  
教育総務課管理係長 郡 厚

5. 議 題 (1) 要綱(案)について

- ・桑名市総合教育会議要綱(案)について
- ・桑名市総合教育会議傍聴要綱(案)について

(2) 大綱の策定について

(3) その他

**【総務部長】**

会議に入ります前に、ここで本日の会議の公開についてお伺いをいたします。

総合教育会議は、原則公開と法律で規定をされており、本日非公開とすべき案件の予定はございません。

傍聴希望者がいらっしゃいますので、また、会の途中から、場合によっては傍聴のところのお問い合わせも事前にございますので、そのあたりも含めて、後ほど会議の中で傍聴に関する要綱をご承認いただけるものとして、ここで傍聴人の入室を許可いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

**【総務部長】**

ありがとうございます。

それでは、入室をしていただきます。

(傍聴人の入室)

**【総務部長】**

それでは、ただいまから平成27年度第1回桑名市総合教育会議を開催いたします。

議長が決まるまでの間、総務部長の水谷でございますが、私が会議の進行を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、会議次第の次にございますお手元の資料1、総合教育会議とはをご覧いただきますと、ここにございますように、この総合教育会議は、市長と教育委員会が円滑な意思疎通によって相互の連携を図り、本市の教育政策の方向性を共有するための協議、調整の場として、法に基づき設置するものでございます。

なお、会議には、市長、教育長、教育委員さんのほか、席次表のとおり、担当部局の職員も出席させていただきますいております。よろしく願いいたします。

それでは、会議の開催に当たりまして、初めに市長からご挨拶を申し上げます。

**【市長】**

改めまして、皆さん、おはようございます。桑名市長、伊藤徳宇でございます。

本日は、第1回の桑名市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育長、また教育委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

また、日ごろ、桑名市の教育行政の執行に関しまして、多大なるご理解をいただいご協力を賜っておりますことに心から感謝を申し上げたいというふうに思います。

ご案内のとおり、この4月から新しい教育委員会制度がスタートをいたしました。桑名市も新たに近藤教育長をお迎えして、そして新しい体制のもとで今スタートをしたところでございます。この新制度に基づきまして、総合教育会議というものが設置されることになったということでございます。これまでも教育委員会と十分な協議を行いながら教育行政を進めてきたところでありまして、今後もそれぞれの役割を十分に認識しながら、これまで以上に連携をして桑名市の教育の方針をしっかりと導き出し、教育行政をしっかりと推進してまいりたいと考えておりますので、ご

協力のほど、よろしく願いをいたしたいと思います。

簡単でございますけれども、開催に当たりましての挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしく願いいたします。

**【総務部長】**

ありがとうございました。

続きまして、会議次第の2、要綱（案）についてでございます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、「総合教育会議の運営に関し必要な事項は、総合教育会議が定める。」とありますことから、本要綱（案）を皆様にお諮りいたします。

桑名市総合教育会議要綱及び桑名市総合教育会議傍聴要綱の案について、事務局から説明をお願いいたします。

**【総務部次長兼総務課長】**

総務課長の岩崎でございます。よろしく願いいたします。

それでは、座って失礼します。

桑名市総合教育会議要綱及び桑名市総合教育会議傍聴要綱の案についてご説明をさせていただきます。

お手元の資料の資料番号2と書いてあります桑名市総合教育会議要綱（案）をご覧ください。

まず、第1条につきましては、趣旨でございます。この会議は、市長と教育委員会が相互に連携を図り、本市の教育行政を推進していくため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置し、その法の中で、「総合教育会議の運営に関し必要な事項は、総合教育会議が定める。」と規定されておりますことから、桑名市総合教育会議の運営に関する基本的な事項について定めるものでございます。

第2条では、この会議で、協議、事務の調整を行う事項として、第1に、市の教育、学術及び文化振興に関する総合的な施策の大綱の策定に関する事、第2に、教育を行うための諸条件の整備及び教育、学術及び文化の振興を図るための施策に関する事、第3に、児童、生徒等の生命または身体に被害が生じたり、被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合などの措置に関する事、の3点を規定しております。

第3条につきましては、市長及び教育委員会をもって構成すると規定をしております。

第4条は、この会議は、市長が招集し、議長となること。また、教育委員会からも市長に会議の招集を請求できることなど、会議に関する事項を規定しております。

第5条では、必要があると認めるときは、関係者または学識経験者の出席を求め、意見を聞くことができる旨を規定しております。

第6条では、個人の秘密を保つため必要があるときや、会議の公正が害されるおそれがあるとき、その他公益上必要があるとき以外は、原則公開とする規定でございます。

第7条は、議事録の作成及び公表について規定をしております。なお、議事録の記載事項につきましては、教育委員会の議事録に準じて作成をしまして、公表につきましては、市のホームページで公表をいたします。

第8条は、会議において調整が行われた事項については、その結果を尊重する旨を規定しております。

第9条は、事務局を総務部総務課に置くことを規定しております。

第10条は、これらのほか、会議の運営に必要な事項につきましては、この会議に諮って定める

と規定しております。

附則につきましては、本日、この会議でご承認をいただきましたら、この要綱は本日付で施行ということとなります。

続きまして、資料の3の桑名市総合教育会議傍聴要綱（案）をご覧ください。

こちらの要綱につきましては、会議要綱第6条に、会議は原則公開とありますことから、傍聴の手続、傍聴人の守るべき事項など、傍聴に関して必要な事項を定めるものでございます。

総合教育会議要綱（案）及び総合教育会議傍聴要綱（案）の説明につきましては、以上でございます。よろしくお願いいたします。

**【総務部長】**

ただいま説明がありましたそれぞれの要綱（案）について、何かご意見などがございましたら伺いをいたします。よろしいでしょうか。

**【大橋委員】**

1つだけ。

ほかの方はないようですので、私も特段異議はないんですけれども、要綱の第2条、これが一番大事ではないかなと思うので、特に大事にされた活発な意見が交わされる会議になることをお願いしたいと、こう思って、あとは皆さん、異議はないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【総務部長】**

貴重なご意見、ありがとうございました。

それでは、他にご意見もないようでございますので、これら要綱を総合教育会議の運営に関する規定として位置づけをいたしまして、今後の運営は要綱に基づいて進めてまいります。

ただいまご承認をいただきました桑名市総合教育会議要綱の第4条で、会議は「市長が議長となる。」と定めておりますので、ここからは市長に会議の進行をお願いいたしたいと思ひます。

それでは、市長さん、よろしくお願いいたします。

**【市長】**

それでは、皆さん、よろしくお願いいたします。

事項書の3、大綱の策定についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

**【指導課長】**

指導課長の山川でございます。よろしくお願いいたします。

座らせていただきます。

大綱の策定についてご説明申し上げます。

資料4、教育に関する大綱策定指針（案）をご覧ください。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が、本年4月1日に施行されたことに伴い、桑名市におきましても教育大綱を策定していただく必要がございます。

1、策定の趣旨でございます。教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についての方針を定めるものでございます。

2、位置づけとしましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で規定されている教育に関する大綱として位置づけます。国の第2期教育振興基本計画、三重県教育ビジョンとくわなっ子育成方針を斟酌しつつ、桑名市総合計画を基本とすることをお願いいたします。

資料といたしまして、資料5、国の基本計画である第2期教育振興基本計画、資料6、桑名市総

合計画における関係する箇所の抜粋、それから、くわなっ子育て方針をご用意させていただきました。

まず、資料5、第2期教育振興基本計画をご覧ください。

2枚目をご覧ください。

左上には、教育行政の4つの基本的方向性が示されております。

3枚目、4枚目には、それぞれの基本的方向性に対して、成果指標が全部で8つ示されております。

次に、資料6、桑名市総合計画の関係箇所の抜粋をご覧ください。

1枚目、左上に小さな文字で、子ども・子育て支援とございます。このページで関連するところは、右上の、「目指す姿を実現するために必要なのは」の一番下、就学前の教育・保育の充実でございます。

1枚めくっていただきまして、2枚目は、学校教育でございます。

右上の「目指す姿を実現するために必要なものは」には、確かな学力の定着と向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成、地域とともにある学校づくり、教育環境の整備が示されております。

1枚めくっていただきまして、3枚目は、人権教育でございます。

もう一枚めくっていただきますと、国際理解教育でございます。

もう一枚めくっていただき、5枚目は、文化、スポーツにかかわるところ、それから、6枚目、最後のページになりますが、生涯学習についてそれぞれ記載がございます。

それから、くわなっ子育て方針をご覧ください。

中を開いていただきますと、小・中学校では、確かな学力、豊かな心、健やかな体を3本柱に掲げ、その土台となるところに人権教育が記載してございます。

もう一度、資料4、教育に関する大綱策定指針（案）をご覧ください。

3、大綱の内容でございます。

（1）社会情勢、本市の教育に関する現状と課題を踏まえ、（2）桑名市としてどのような子どもを育てていくのかという基本理念、（3）基本理念を実現するための基本方針についてご審議をお願いいたします。

なお、（2）基本理念につきましては、市長より、案として「夢を持ち、その夢に向かって努力する子を育てます。」にしたいという意向を伺っておりますので、この点につきましてもご審議をお願いいたします。

以上でございます。

#### 【市長】

ありがとうございます。

事務局からの説明は以上となっております。

大綱は大変重要なものでありまして、どのような大綱にしていくのかということについては、やはり教育委員の皆さんと十分な協議、調整が必要と考えております。その中で、今回、基本理念という部分で提案をさせていただくことですが、私も就任をしてからずっと言っていますけれども、やはり子どもが夢を持つことができるまちにしたいと思っていますし、そして、もう一つは、やはり夢をかなえるために、夢を実現するために頑張る、努力する子どもを育てていきたいというふうに思っています。最近では夢が持てないという子もおるといふふうに聞いていますし、また、なかなか努力することをしないという子たちも出てきているというのを聞いていますけれども、やは

り一番大事なのは、まず自分でしっかり夢が持てるまにしたいということと、そして、自分で努力、自分で頑張ろうと思うような子どもになってほしいなというふうに思っております。その夢を実現するために、じゃ、何が必要なのかということがこれから議論していくところだというふうに思っておりますけれども、やはり当然、学力というものは非常に大事だというふうに思いますし、そして当然、体力というのですか、体力がないと頑張ることも頑張れないというか、また、心の部分、心の豊かさといいますか、やはりいろんな周りの友達を大切にできるとか、そういうような部分で心も豊かであってほしい、そういう子を育ててほしいなというふうに思っておりますけれども、このあたりも含めまして、教育委員の皆さんとも、どんな大綱にしていくべきなのかということをいろいろこれから議論していければいいのかなというふうに思っております。

本日の会議でご協議をいただきたいのは、現在の桑名市の教育の課題を踏まえた上で、今後4年間、桑名市が重点的に取り組むべき教育や学術・文化施策として何がいいのかということをご意見をいただければというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

初めに、教育長からご意見などいかがでしょうか。今日は傍聴の方もたくさんおられますし、ちょっと空気もかたい感じになっておりますが、トップバッターでちょっとこの空気を破っていただいて、よろしくお願ひします。

#### 【教育長】

それでは、皆さん、おはようございます。教育長の近藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

ちょっとかたい雰囲気だということもありますけれども、まず意見を申し上げる前に、大綱というのがどんなイメージなのかというのも少し皆さんと共有をしていきたいと思っております。たまたま新しい教育委員会制度が始まって、各地でこのような総合教育会議が開かれているということでございますので、少しリサーチしてみたいんですけども、大綱というのもいろいろございまして、まず、これは名古屋市さんなんですけれども、もう1枚ペラなんです。こういう大綱もありますし、それから、多くのところは大体数ページから10ページぐらいの、こういうような大綱ということで、先ほど指導課長からありましたように、理念があつて、基本目標があつて基本方針があるというような形のもの、それから、これは東京都さんとか、ほかの教育委員会の状況なんかを聞いていますと、三重県さんもそんなふうになるのかなと思っておりますが、こうしたビジョンが既にあつて、そのビジョンをもとに肉づけをしていくというような形の大綱ということで、こちらなど、100ページ、200ページというようなレベルのものもございまして、桑名市がどういう形の大綱にしていくかというのを少しご議論いただかなあかんのかなと思うんですが、私は大体、2つ目あたりかなというイメージでおるわけでございます。

その中で、現在の桑名市の教育の課題を少し踏まえながらお話をさせていただきたいというふうに思っておりますけれども、先ほど事務局からありましたように、国の教育振興基本計画というのがございまして、地域社会とか、あるいは家族の変容という項目があつたわけでございますが、私もこの3月まで校長をしていましたので、かなり実感がございまして、保護者の方、ご家族の方とか地域がかなり変わったなど、それに伴いまして子どもたちも大きく変わっているなというイメージを持っております。

そんな中で、少し一般的な議論も含めて言わせていただきますと、核家族化をしていると、それと、少子化という状況で、子どもたちがかなり影響を受けているなということを感じております。私が子どものころの家庭とか地域というのは、かなり多様な年齢集団がございましたし、その中で

人間関係ももまれながらというんですか、人とのかかわりとか、ある意味、自分もコントロールしなくちゃいけないということも学んだような気もしておるんですけども、特にこれはよく言われていることですけども、いわゆる時間、空間、仲間という3間がかなり消滅しておるんじゃないかというふうに感じております。

その中で、確実に子どもたちが人とかかわる、あるいは集団の中でというような、いわゆるコミュニケーション能力というのが育ちにくい、ちょっと極端な言い方をすると、人が人になりにくい、今はそんな環境にあるのではないかなというのをすごく危惧しました。ある一面では、阪神・淡路とか東日本の震災がございましたので、これをもとに絆とか、あるいは人の生き方というのがもう一度見直されているとはいうものの、一方で、どうも個人主義という言い方が合うかどうかわかりませんが、他者とかかわることを少し敬遠するような傾向があるのかなというふう現場へ行きまして感じたところでございます。

その中で非常に気になったのは、子どもたちの言葉なんですけれども、「どうせ」という言葉がよく出てくるんです。「どうせ自分なんか」というようなことを言いますし、それこそ市長さんじゃないですけど、夢を持ってやろうねとか、こういう目標を持ってやろうねと言っても、最初に出てくるのは、「無理」という言葉がすぐ出てきて、そんなの、校長先生、無理だからという言葉が出てきて、どうもいわゆる自尊心というのが低いなという感じを受けました。その背景を見ますと、子どもたちはやっぱり毎日忙しいんですよ。かかわるような時間というのはなく、特に高学年、小学校高学年の子ども達と話をしますと、今日はもう塾へ行って、次、何々って、かなり9時ぐらいまで、夜の9時ぐらい、自分の生活が規制されていると、そんな中で、どうしてそんなことをするのと言うと、何か「むしゃくしゃする」とか「いらいらする」というようなことを言っておりましたので、もう少し意図的にかかわれるような環境づくりというのが必要ではないかなと。そして、もう少し自分の道筋を考える時間というのを与えてやってほしいなというような気がしております。

そんなことが1点、感じておるところでございまして、ちょっと長くなって申し訳ありません、3つぐらい言わせてください。

#### 【市長】

どうぞ。

#### 【教育長】

2つ目が、やっぱり少子化のことがかなり気になりまして、幼稚園の再編が今やられていますけれども、もうどうしても1クラスで10人、15人というような学級もございまして、そうなってくると相当厳しいと。それと、1つ感じましたのは、クラス替えができないというのは非常に致命的なんですよね。やっぱり人間ですから合わない子もいるんです。そうすると、クラス替えをすればその子どもたちは救われると思っても、1クラスしかないということになると、もうそこしか身動きがとれないということになりますので、そんな意味では、子どもたち、児童、生徒がかなり減っているということもありますけど、桑名の場合は、じり貧なんですよ。

ところが、地域によってかなり隔たりがあるというふうに思っておりまして、5月1日のデータを今持っておるんですけども、全学年で単学級、クラス替えができないという学校が10校ございます。26あるうちの10校ですね、小学校の場合ですけども。それから、3年後にはおそらく複式が出てくるだろうなというようなデータも載っていますので、そんなことを考えますと、やっぱりある意味の再編統合ということもこれから考えていかななくちゃいけないんじゃないかなというよ

うにもちょっと痛切に思っております。

それから、もう一つ、3番目に私が思っていますのは、昨日、たまたまPTAの会長会議に招かれましたもので、そこでも少しお話をさせていただいたんですけれども、SNSというんですか、高度情報化の進展というのはいいんですけれども、マイナスの部分といたしましうか、スマホ、携帯のことなんですけれども、かなり所持率は高いと。中3の子ですと80%以上持っていますので、その中で、どうしても加害者になったり被害者になったりということもかなりありますので、これはいじめの温床にもなっていることも事実なんですけれども、もう一つ危惧していますのが、かなりの時間、依存しているんですね。1日に4時間以上スマホ、携帯と付き合っているというんですか。ベッドの中へも持っていく子も当然ですけれども、お風呂の中へ持っていく子がおるみたいですし、そうやってきますと、やっぱり現場の先生たちとも話しておったんですけれども、昨日、たまたま中学校の先生と話していたら、目を真っ赤にして朝からあくびが絶えないというような状況もあるようですので、これは教育委員会だけでというわけにいかないと思うんですけれども、保護者の方々とか地域の方々を巻き込んで、1つ警鐘を鳴らせればなというように思っているところでございます。

ちょっと長くなりましたけれども、最初の口火ということでお許しいただきたいと思います。以上でございます。

#### 【市長】

それでは、多分皆さんたくさんお話しいただくとお思いますので、まず皆さんからいろいろ聞いた後で意見交換といいますか、そういうのがいいのかなというふうにちょっと思いましたので、そういう形で進めさせていただこうというふうに思います。

では、稲垣教育委員、どうぞ。

#### 【稲垣委員】

私は、教育委員になってまだ半年なんですけれども、いろんなことを思って、結論から言うと、規模に関係なく、先生の数をやっぱり増やすということが最終的には大きなポイントになるのかなと。先ほど近藤教育長さんとも話していたんですけど、本当にフリーで動ける先生が1人いるだけで変わるんじゃないかと思って。実際、私も自分の本職のほうで、実はいろんな学校の先生が相談に来るんですね。どういう内容で来るかという、ほとんど子どものことではないんですね。というのは、子どものことは皆さん頑張っているんで、自分なりに一生懸命やっているんですよ。でも、多くの悩みは、横の先生とのこととか、学校の中でどうもうまくいかないとか。じゃ、誰に相談しているの、教頭先生とか校長先生に言ってみたらという、いや、とても言えないと言うんですよ。

じゃ、誰に言っているのという、同じ先生、同じ学年の隣の先生に、でも隣の先生と仲が悪いと誰に言うんだと、そういうことになっていて、要は学校の先生は1人で全てを抱え込んでしまっているという現状が、結局子どもの状況にも届くでしょうし、そういういろんなものに影響するんじゃないかなと思うんですね。

実際、私は今、子どもがいますので、読み聞かせボランティアを一時やっていたときがあって、いろんな学校でも、いろんなクラスにちょっとだけ、朝に20分ぐらいお邪魔するんですね。そうすると、行くクラスの雰囲気って、やっぱり先生によって全然違うんですよ。ぎゅっとまとめて読み聞かせの状況をすごく上手につくる先生もいれば、何かもうてんでばらばらで、こっちがうるさい中やっているような先生とか、それはその先生なりにすごく頑張っています。何ができていないかという、共有化がされていないということなんですよね。うまくいっている先生のノウハウを、

先生自身もこれがうまくいっていると思ってやっていないですし、これでいいのかって、皆さん、やっぱり自信のないところで手探りでやっているの、そういう意味では、誰か1人、フリーに動ける先生が、あんたがやっているの、いいよとか、これ、この先生がこういうふうに使っていたから、これを使いなよといった情報の共有化がもっと起こる。多くが初任者とか、何か研修の節目にはそういう人がつくと思うんですよ。でも、やっぱり問題は、ベテランの先生にそういうのはつかないということだと思うんですよ。やっぱりベテランの先生に物を言えなくなっている何かがあるとは思いますが。そういう意味でも、フリーで動ける、教頭先生とか校長先生はやっぱりそれだけの役割があると思うので、もっと本当に現場に何かどっぷりつかれるような1人の先生が入ることで、子どもにも最終的にもプラスになるというふうに思っています。

なので、イメージとしては、教師を育てるといえるのか、本当に教育者を育てていく。ここにいらっしゃる教育委員の先生方とか、行政の皆さんは教育者だと思うんですが、やっぱり教師と教育者と違うと思うんですよ。どれだけ桑名市で教育者を育てていくのか、学校という枠を越えてでも教育者であるという人をやっぱり育てていくというのがすごく大事なのかなというふうに思います。

以上です。

**【市長】**

いろいろいただいた後で、皆さんと意見交換を。

米田委員、どうぞ。

**【米田委員】**

自分の意見でもあるのですが、今、お二方のご意見を伺って、それも受けてのことになるんですけども、結局、子どもの一人ひとりの状況が外に伝わっていないと意味がない。クラス替えの話、今、伺いましたけれども、クラス替えの権限は子どものほうにはないので、結局、この子とこの子がどう相性がいいかとか、そういうことを先生がおわかりでなかったら意味がないわけですね。子ども一人ひとりの声は何らか解決できるまで届くということであれば、必ずしも単学級は悪いことではないし、複数クラスであっても、要するにその他大勢が生まれてしまったら意味がないことなんです。それは子どもの部分を教員や職員に置きかえても同じことで、今、稲垣さんがおっしゃったように、相談できる雰囲気があるかどうかとか、上の役に言いやすいかどうか。私も組織の中におりますけれども、えてして上司というのは物が言いにくい。うちの職場でそんな問題があるということが外に知られては困るというお立場もおありだと思うんですけども、そういったいろいろな道で自分の抱えている問題、それを教員の場合は子どもが抱えている問題ということに直結すると思うんですけども、それがいろいろ発信できる機会があるという、それがツイッターですとかフェイスブックとか、そういうところだと困るわけですね。そういう道はたくさん欲しいと思います。

**【市長】**

では、次に松岡さん。

**【松岡委員】**

まず、教育について大前提として、安心して子どもを育てて学校にやれるという、そういうのがあるかなと思うんですよ。私は子どもが3人いますけれども、1人目は何とか、2人目もまあまあ、3人目は大丈夫かなというのがあり、私は楽観的ですけども、今、うちの娘、高2ですけども、私は60歳で、昔の感覚だったらもう定年退職だから、でも、何とかなるだろう、上のお兄ちゃんが教育費を出してくれるだろうということで3人目をもうけましたけど。

そういうことと、それから、学校に通い始めたら心配が絶えないわけですよ。大体、子どもを学校へやるときに言うことは決まっていますよね。車に気をつけなさいよと、それから、知らない人に声をかけられてもついていったらだめだよという、そういう心配があるんですよ。学校へ通っていても、元気をなくして帰ってきたら、学校で何かあったのかなと思いますし、いじめに遭っていないのかなというのがありますよね。そこら辺が安心して学校に通わせられるというか、学校からすればやっぱり目配り、気配りの利くような人がいると、親からすれば相談できる人がいるという、さっきも出ていますけれども、忙しくてなかなか一人ひとりの子どもの目を見て、そういう時間が確保できないという、そういうような事情がありますので、そこら辺は何とかならないといけないんじゃないかなというふうに思います。

それと、私、大綱っていろんな分野があると思うんですけど、私は大学で国際担当を何年かやっていたので、それから言いますと、グローバルという言葉も載っていましたが、異文化、国際交流、そういう点を進めたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。国際交流というと、アメリカ、オーストラリアという英語圏をぱっとイメージするかもしれませんが、それだけではないですよ。アジア圏、ベトナムなんか日本語熱が高いですから、そういうところと交流してアジアの文化を理解するというのはとても大事ですし、いろいろ交流、政治・経済的な発展にもつながるんじゃないかなというふうに思います。

それと、もう一つは、必ずしもそういう交流は海外とやらないといけないかと、そういうことでもなくて、三重県は、日本全国でもトップクラスですよ、外国人の比率が高いということで。桑名市も高い。三重県の中でも桑名市は高いわけですね。そういう中で、学校に日本語がうまく通じない子どもがある割合でいるというのは、なかなか教育がしにくいという、そういう面はあるんですけども、見方を変えれば、わざわざ出かせなくてもそこに異文化があるということなんですよ。だから、うまく持っていけば、異文化理解、内なる国際交流、そういうこともできるんじゃないかなというふうに思っています。

私からは以上です。

#### 【伊藤委員】

皆さんが言われたことはなるほど、なるほどということなんですけど、一番私が引っかかっていることは、バブル崩壊から教育への関心が世間的にも非常に高まった。その高まったのが、国の資料を見ても、何かというと学校の学業成績というのが評価の一番大きな基準になって、人格とか、そういうところの部分がなかなか見られなくなっている。だからといって、今、もとへ戻すには非常にエネルギーが要するという事。

それと、もう一つ、今現状は、大学へ進学している者が50%を超えている。そして、50%のうち、6割だけが学業で大学へ入っていつている。それで、4割は人間性で入っていたりしているということがあるにもかかわらず、そこがなかなか知られていない。だからといって、一番大きな問題は、そうしたら、今度社会に出るとき、何かというと人間性も評価されるけれども、学業の成績が悪ければなかなか受からない。だから、そこに保護者や、あるいは地域の人からすると、非常に悩みがある。だからといって人間性をないがしろにすると、いじめやいろんな問題、今、教育長がSNS、パソコンやスマートフォンを自粛するというふうなことを言われたような気がするんですけども、それが自分でできる子にしない限り、要は隠れてやるほうがもっと怖い。いじめでも一緒に、みんないじめ、いじめって言われておるので、子どもたちはだんだん隠れて巧妙ないじめになっていく。だから、学校では非常に見つけにくいなと思うけれども、そういう問題があるという前提で、

学業成績を上げることも必要だけど、人間性を高めるためにも同じぐらいの必要性があるということ、これは保護者も学校の先生も絶対に忘れてはならない。学校の先生が時々、成績、成績って、特に私も進学校にいたときは、それでいいのかなと思った時がありますが、やっぱりその辺のところを大事にしていく。

例えば、国の教育行政の4つの基本方針で、1番に社会を生き抜く力の養成って書いてあるけれども、これの具体例を次のページで見ると、どう見ても学業のほうにシフトした形で書いてある。もちろんいじめはだめだと書いてあるけれども、やはりその施策というのはなかなか築かれていない。学校にはカリキュラムがありますね。カリキュラムはみんな注目されるんですね。でも、隠れたカリキュラムがあると思うんです。その隠れたカリキュラムというのは、児童会であったり生徒会であったり、部活動であったり、あるいは休み時間に子ども同士、仲間同士で遊ぶとか、あるいは放課後、どうやって学校の施設を利用するとか、そんなふうな隠れたカリキュラムというところをやはりここで一度考えないと。結局、今は後追いの、いじめが起こってから何か手を打つのではなく、先にするという、そういう点では、フリーの先生がいるというのは非常に大事であるし、あるいは、特別支援の子どもたちでも同じで、特別支援のコーディネーターをする人が担任をしたりしていると、やっぱりみんなに目配りが届かない。だから、そういうのも人を増やしていただくというふうに。

そして、先生のほうでは、先ほどもちょっと話題に出ていたんですけれども、ちょうど若い先生とベテランの人と溝がちょっとできています。これは日本全体同じなんですけれども、やはり昔の先生というのは、専門的な知識は当然なんですけど、それ以上にあったのがコツとか勘とか、ここで何をしないといけないとか、そういう職人的な部分が割とあったんですよね。だから、岩手のような、ノートで交換していても、普通だったらこれはもう赤信号だと、その赤信号がどこなのかというのは、勘とかコツとか、そういうところになってくると思う。そういうことを先生達に研修していただけるような形をやはりもっともっと桑名でつくっていかないと。桑名は、特に若い人の比率が高まってきていますので、先生がそういう勉強をしていただけたら。

それで、もう一つ最後に、教師が教える教師から、教師も学ぶ教師に変わってほしい。先生も一生懸命学んでほしい。だから、私もこうやって言う以上、一生懸命自主自立して、一生懸命勉強していますけど、やっぱりそういうことが非常に必要ではないかなと思います。

以上です。

#### 【市長】

ありがとうございました。

では、お待たせしました。大橋委員。

#### 【大橋委員】

前の市長さんとお話しするという機会というのはあまり恵まれませんでしたけれども、今回、この会議ができたことによってたくさん交流ができるのでうれしいかなと。

市長さんが新しくなられて、随分新しいところへ入ってきていろいろ開拓しようとしても、忙しさというのに目を奪われて、今日でも5分遅刻してこられたということは、その前にちょっとお話を聞いたら、あちらの葬儀に出ていたり、こちらの会合のご挨拶に出られたり、土日もなしで。果たして自分の施策をやったり言ったり、意思疎通させるのが大変だろうなと。ぜひ頑張っていて、これからもまた難しいことも言うんですが、意思疎通だけでもできればいいのかなと。

学校でも同じことで、教師と子どもとが意思疎通ができていけばいいんじゃないかと。その言葉

の中でどうやったらいいのかとよく聞かれるんですけど、松尾芭蕉の言葉の中に「不易と流行」という言葉があって、その中で、流行というのは新しいことをどんどん取り入れていきなさいということですけど、不易というのは昔から変わらないものがありますよと。そういうものの中に、教師と子どもとの師弟愛、いわゆる信頼されているということが1つと、それから、もう一つ、教師としてのだご味は、物を子どもたちに知らせるというんですか、知る喜びを与えるということと、それから、できるということの喜びを与える、いろんな話をして。それから、集団でやることの楽しさを教えるということがずっと昔から変わらない教育の1つだというふうに昔から言われていて、私もそういう教師になろうと思って努力してきたんですけども、三教組のスローガンの中に、「わかる授業と楽しい学校」というのだったかな、そういうスローガンがあった。これは誰向けにあるんだということを聞いたときに、これは先生用だと、先生が分かる授業をしましょうよと、それから、学校へ来るのが楽しい学校にしましょうよということ、それが全て子どもに伝わっていったということ。今はどんなスローガンに変わったか認識していないんですけど、やっぱり学校の先生は子どもたちとのコミュニケーションの一番の先頭に立ってやっていかないといけない、それを育てるのは子どもではなくて、私は教師じゃないかなと。そういう意味で、この大綱をつくって育てていけるなら意見を言わせていただきたいなと。

そういうところで、ちょうど総務部長さんもおみえになるんですけど、教育予算の削減というものがあられるんですけども、私はソフトの面で紙が多いか少ないかと、そういうことで削ったりなんかしちゃいかんと思うんですけども、どんどん増やせという必要もないのかなと。昔、鉛筆を注文したら、市役所の人に叱られたことがあるんですよ。注文したんですよ、買ったんですよ。そうしたら、こんなもったいない使い方をするなという、それもよくわかる。こんな使い方をしてというのはわかるけれども、買う、買わないの話は、市役所の責任だからって思ったことがあるんですよ。

それと同じことで、何を今大事なのかといたら、やっぱり学校がもう50年も経っている古い校舎で雨漏りも絶えないとか、そういうハードな面を、学校というものを育てていかないと。大変だということはよくわかります。桑名市は何で金がないんだ、こんなことまでカットするのかというような金のなさというのはよくわかるんですけども、何でかということとはよくわからないんですよ。ですけども、やっぱり教育というのは、米百俵や何か言われたように、削っちゃいけないもの、福祉と教育は削っちゃいけないもののトップだと思うんです。

ちょっと余談になるんですけど、昔、理科で実験用に、実験室に椅子を買ってもらったことがあるんですよ、市役所で。高い椅子を要求したんですよ。ところが、買っていただいたのは百均ぐらゐの安い物だったんです。それで、すぐに壊れた。怒られたんですけども、見に来られた。お座りくださいって座られて、こうやって椅子をぐっと引っ張ったら壊れちゃったんですよ。あなたが座っても壊れるやつは、子どもが座ったらなおさらですよ。もう一度買い直しましょうねと言っていいのを買ってもらったんだけど、安いのを買った分だけ無駄だったなと。だから、安いものでも数さえそろえりゃいいというものではないということで、教育に金をけちっちゃいけないというか、大きい声で言いますが、よろしく。

ただ、ぜいたくなものは要らんとするんです。どこかで生徒が、大きな大型のテレビでいろんなことをやるって、何とかテレビってありましたね、大型スクリーン……。

#### 【市長】

電子黒板。

## 【大橋委員】

電子黒板。あれを使いこなす教師というのはまれですけどね、私らなんかやとパソコンも使いこなせない。けど、やっぱりそういうものよりも本当に基本のものは何だと、それは十分に与えてもいいのかなと。それから、教室も採光をよくしてほしいと思いますね。ですから、そういう意味で、教育は人なり、誰かが言ったように思うんですけど、予算と人と与えていただきますようによろしくをお願いします。言いたいことを言いました。

## 【市長】

貴重なご意見をありがとうございました。

今、6名の方からいろんなご意見をいただいたところでありましてけれども、ここから意見交換、また質疑というような形で進めさせてもらおうかなというように思っていますけれども、非常に広い範囲でお話をいただいたものですから、フリーなほうがいいのかな、まとめちゃうとちょっと。

## 【教育長】

今日はいろいろご意見をいただいて、それでまた事務局のほうで分野別にまとめていってはくれると思うんですけども、ある程度絞っていったほうがありがたいかもしれません。

## 【市長】

まず大きいところでいくと、やはり教育長がおっしゃっていますように、やっぱり子どもたちも忙しいとか、どうせとか、無理とか、何かちょっとそれを乗り越えないとその先に行けないような部分があるなというのを私も感じるんですね。高校のほうに講演に行ったときに、先生たちから夢の持てるような話をしてくださいというので、夢の持てるようないろんな話をしたんですけど、その後の質疑応答の中で、子どもたちは、それをするのに幾らかかるんですかってお金の話ばかり出てきて、おそらくこれは大人を見ているんだと思うんですけどね。我々もお金のことをたくさん言うようになってしまっていますし、何かコストの話を子どもたちもするんだとちょっと愕然とした部分もあったんですけども。

やっぱり子どもたちが本当に何か夢を持てるようになるにはどうしたらいいのかというのは非常に大きなことかなというふうに思うことと、あと、全体的に先生の数といいますか、学校の現場が、今、本当に大変な状況になっているんだろうと思っていて、ここを、先ほど教育は人なりというお言葉もいただいたところですけども、これをどうしていくのかということは大い部分かなと。以前と比べるといいですか、おそらく多様なさまざまなお子さんたちが、今、小学校、中学校に来られていて、当然特別支援のお子さんも増えているでしょうし、先ほど松岡委員も言っていたように、外国籍のお子さんもたくさんいます。今日はまだあまり出ませんでしたけど、おそらく貧困というような課題もありますし、いろんな意味でさまざまな方たちが、子どもたちが学校に来ている中で、やはりこれまでと同じような先生の体制ってなかなか大変なんだろうなと。そんな中で財務省が、教育というのは先生が多いので削減をしますというような、ちょっと私から見ると乱暴のかなという議論が今始まっているところでありましてけれども、あれもこのあたり、現場の部分と、国が考える子どもの数が減っているから先生を減らせというのと、やっぱりちょっと違う部分が大いかなということを思いましたね。

あと、施設の問題というのも、ちょっと今、幾つか。教育長からも少子化の課題というものもあるんじゃないかという分もありましたし、桑名市にお金がないのは、これは学校のことだけではなくて、全体として施設が多過ぎて、そこにやはり人も張りつけ、維持、管理もあるということで、そういうのを大きく見て、やはり桑名市の財政を非常に圧迫しているというような状況でもあります。

そういう意味で、施設の部分も大きくあるなとも思いますけれども、まずはやっぱり子どもたちなのかなというふうに思いますね、大きな課題としては。現場で見られている方、また、いろんな形でお子さんたちとも、保護者という方もおられますけれども、やっぱりそういうことを感じられるんですか、自尊感情がないとか。

#### 【伊藤委員】

ちょっといいですか。子どもが、私自身が思うには、先ほども少子化で学業の成績という、私もちょっと言わせていただいた。子どものうちに自分ができる、できないが評価されているという意識は子どもにもどんどん伝わっていく。できないというと、できるようないい子でありたいという。3歳ぐらいの子なんかでもすごく上手にしゃべるじゃないですか。自分が3歳のとき、あんなふうに絶対言わなかったなと、それぐらいに子どもたちは表面上はできている。それでも内面がそこまで行っていないという現実がある。

そうすると、私ら団塊の世代は、私だと中学校1クラス55人で13クラスあって、それでも成立しておった。だから、財務省が減らすというのは、その時代、成立しておったわけですから。でも、何が違うかという、私らは私らでルールができた。採点にルールが、あるいは先輩からこれはしたらだめだとか、ルールができた。ところが、今、自分というのが、他者を感じるというのが非常に少なくなっているの、家庭もみんなそうなんですけど、つながり、きずなということになってきて、これが今の社会の動きであるというのはいかに破壊するわけにいかないの、変えるわけにいかないの、やっぱりそこに立ってどうあるべきかというふうに考えていかないといけないという気が私はものすごくしているんですけどね。

だから、そんな中で、学校教育の中で先ほど言った隠れたカリキュラムというふうなもの、あるいは保護者がいかに学業だけではなくて全部を見れるように。よく塾へ行っているからいいとか、もうかかわる時間がどんどん。これはある程度、共稼ぎということもあるので、我が家も共稼ぎだったから子どもを塾へ行かせたり習い事へ行かせたりして、自分たちが帰ってくるころに家に子どもがいるというふうにできるだけしてましたから、だからわからないわけではないんだけど、そこでちょっとの時間、家族がかかわれるような時間をつくっていただくというふうな啓発を教育がしていかないといけない。だから、本当に先生の役割がものすごく増えている。そこを理解していただくということが非常に大事じゃないかなと。

校長先生たちが地域と触れ合うことが、あるいは先生方が地域と触れ合うことに非常に時間をとられる。とられるのはいいんだけど、それで成果が、子どもにそれが伝播していけばいい、親で終わったりとか。やっぱりその辺をうまくもうちょっと仕組みを考えていかないといけないのかなという気がしますけど。

#### 【市長】

昔は隠れたカリキュラムというところの以前に、おそらくいろんな異学年交流というんですか、そういうのが普通にあって、私も放課後、1年生から6年生までみんなでサッカーをやって、朝からフットベースとかをやって、人が足らなときは三角ベースやったのが、何か守りの子どもが増えてくるとベースを増やして守る人を増やしてとか、そういうルールを子どもたちで勝手に作ってやっていたというようなことがありますけど、今はおそらくそういうのがなくなって、同級生の近所の子と遊ぶとか、そういうことになってしまっている中で、さっきのコミュニケーションが育ちにくいということと多分つながっているんでしょうね。

そういう意味で、おそらくそういうことまで含めて学校の先生が伝えて教えていくのか、そして、

それは可能なのかというのもおそらく出てくると思いますし、そうでない方に助けてもらうというか、例えば地域だったりとか、いろんな方に多分そういう場所をつくっていってもらえるようなことも必要になってくるのかもしれないね。

#### 【教育長】

ちょっと関連でということ。子どもたちの遊びは、私も去年まで勤務していた学校だけのイメージなんですけどね、本当に一人ひとりですね。近所の子と遊ぶ時代がちょっとあったと思うんですよ、3人ぐらいでも。それは我々からいくと、リカちゃん人形とかガンダムとか、あんなのが出てきたときには、そこそこ3人、4人で遊んでおったんですけども、今はもうDSでゲームをしているんですけども、本当に一人ひとりで、ただそこにいるというだけです。こうやって7人なら7人が遊びにしても、ある時間には共存しておる空間はあるんですけども、一緒にかかわっていないというような現実でしたので、もう一言も言わず、ずっとこうやっているだけです。そんな状況があるので、できるだけ地域の行事なんかにも子どもたちは出てもらうとかなりいいんじゃないかなと。だから、学校と地域がもうちょっとタイアップできるような関係もつくっていかなくちゃいけない。ある意味、どうかわかりませんが、コミュニティスクールという考え方もありますけれども、少し地域の行事にもっと参加してもらいたいなということを1つ思いましたのと、ちょっとおもしろいデータがありまして、国立教育政策研究のデータの中に、小学校の子どもたち、中学校の子どもたちがやる気を出せる、さっきの「どうせ」とかという逆ですね。やる気を出していただけるような項目が幾つかあるんですけど、その中のかかなり注目すべき項目で90%以上の数字が出ておるのが、小学生の子は、仲のよい友達ができるときに勉強なんかでもやる気が出てくるというふうに言っているんです。中学生の子は、将来就きたい職業に関心を持ったときにすごくやる気が出てくるというようなことがありますので、小学生の子どもたちでも、例えば何か運動会という目標があって、それを自分たちで何とかしていこうとか、修学旅行にしても、自分たちでクリエイティブできるような修学旅行にするということが目標があると、かなりやる気が出てくる。中学校の場合は、端的に、自分は、市長さんが言われるように、何になりたいという夢ができたときに、ものすごく伸びていくというようなのが出ていますので、そんな環境がつかれないかなというふうに思っております。

ちょっと関連があるかわかりませんが、そんな思いをしています。

#### 【市長】

米田委員、どうぞ。

#### 【米田委員】

夢という言葉が、自分の若いころはあまり好きではなくて。例えば、小学校の卒業式で将来の夢を語らせるとか絵に描かせるということに何の意味があるんだろうと思っていた時期があったんです。例えばオリンピックで金メダルをとりたいとか、イチローのように野球選手になりたいとか、そういうこの子がなれるわけがないのに、なれるかもしれないですよ、そういうことを語らせるのに何の意味があるんだろうと思っていた時期があったんです。でも、自分が子どもを持って少し変わってきました、最初、イチローのような選手になりたいと思った子が、無理だと思う。そこで、「どうせ」とか「無理」だとかじゃなくて、例えばイチローが愛用しているバットやグローブやスパイクや、そういうのを作っている職人さんのことをテレビや本で見ると、これなら自分ができる、自分は手が器用だからと。あるいはイチローの体を支えている栄養、あるいは安全な食品を農家として作るとか、そういうふうに自分ができること、ちょっと努力すれば届きそうな夢につな

がっていくということが大事だということが、自分が子どもを持ってわかってきたんですね。だから、学力ということは今おっしゃっていますけれども、点数で、これが全ての夢で、これで決まるんじゃないところが、それは周りの大人であったり、年齢に応じた読書経験や、それから生活経験であったり、そういう機会をつくってあげることが一番大事なのかなと思うんです。

よく国がこうだから、それで県に来て市に来てということで順繰りに振り回されるものなんだなということが、このお仕事をさせていただくようになってわかったんですけども、国のこれをつくっている人って、私立の中高一貫からいい大学へ行って、そこしか知らない人が意外と書いていたりするではないですか。

私、今、地域アイデンティティということをよく自分でも考えているんですけど、一人ひとりが自分を大事にするという気持ちと同じように、その地域の特性ですとか、あと、一人ひとりの能力を見つけていくという自尊感情ですよ、そこを大事にしているのが、国がこう言っているけれども、国のそのとおりではうまくいかないことも多くて、むしろ強みを見つけていくことが一人ひとりですとか地域のいい方向につながるのではないかと思います。お金がないことも点数が足りないことも、チャンスに変える力にしてほしい。

#### 【市長】

制約こそがイノベーションだという言葉もありますし、いろんな制限、とりあえずある部分もありますけど、確かに桑名というまちで生まれて育つ意義みたいな、そういうものが出てくるとすばらしいと思うんですよね。さっきも申し上げたかもしれませんが、会津若松は桑名と縁がありまして、会津若松は「八重の桜」のドラマでも大分有名になりましたけれども、ならぬものはならぬというものが国是というか、市是というか、要は市の考え方全てがそうになっているというのあって、町なかに全てならぬものはならぬと書いてありまして、学校の校長先生の部屋に行ってもならぬものはならぬと書いてあります。これが当たり前だというようなまちづくりが進められているんですね、まさに会津若松はそういうまちやなと思いますけれども、何かそういうのが、例えば桑名の中で、また桑名のそれぞれの学校の中でそういうものができてくれば、それは本当にすばらしいことだろうなというふうに思います。

#### 【米田委員】

もちろんマイナス、負の遺産でもいいんですよ。軍事産業があったから空襲に遭ってしまったとか、あと、人権の問題で言えば、こういう時代もあったと過去形にするのはちょっとあれかもしれないですけども、そういった負の部分も経験してきて、それを次世代に二度とそういうことをさせないというの、それも大事な地域アイデンティティだと思うので、そういうことができればいいというのが私の夢です。

#### 【稲垣委員】

いいですか、今のに関連しているんですけど、結局、人って夢という、私も市長の、夢を持つ、その夢に向かって努力する子を育てますというのに非常にいいなと思いつつ、ある意味、みんなもプレッシャーというか、違うやっぱりエネルギーを感じるんだなと思うんです。というのは、やっぱり特に子どもであれば、さっき伊藤さんもおっしゃってくれたように、できると思える子のほうが実は少数派で、やっぱりできないというところに私たち、クローズアップされてしまい、今の子を見ると、やっぱりできないにクローズアップされる事実がちょっと高いんじゃないかな、昔と比べて。昔は何とも言えない、できないだろうというような子でもできるという、あるじゃないですか、万能感というか。

今は、できない、やっぱり自分はねというところにクローズアップされる、これは社会現象なのか家庭環境なのかというのはあると思うので、そういう状態の中で夢を持とうねと言われると、やっぱりこれって全然、たぶん響かないと思うんですね。やっぱりちょっと違う次元になっちゃうと思うので、今おっしゃってくださったように、本当にできないが、いいんだよという、できないからスタートしようよみたいな、できないをできるに変えていこうみたいな、そういうスローガンとか、そういうのを何かみんなで作っていいのかなというのをちょっと思いました。

**【市長】**

これ、社会全体が右肩上がりだった時代と、おそらく今、そうでない時代というふうにきれいに変わってきている部分もあって、それも多分、右肩下がりだと、おそらくマイナスの部分に目が付き始めるんでしょうね。昔、経済成長が七難隠すという言葉もありましたけれども、その中で子どもたちもいろいろプレッシャーに感じているというか、社会全体がそういう風潮だから、おそらく子どもたちもそういうようなことになっているのかなと思いますね。

**【稲垣委員】**

そうですね、多分、まだ世の中はそんなできないと思っちゃだめだよという発想があると思うんですけども、それって今、そういう時代じゃないと思います。できないと思っただけで、だって、できないと思うことがあるからできるチャンスがあるよねという、そういう発想にやっぱり大人たちも変えていかないと、何かできないと思っただめだめという、このポジティブさがネガティブを生む感じがありますよね。

**【市長】**

なるほど。空疎な明るさというか。

とはいえ、なぜ私が理念、これを言っているかということ、おそらく夢のないところにはもう多分そこに努力することはないし、それに何か行動することもないし、おそらくその子が向上することはないと思うんですね。夢っているいろいろあって、例えば今度の期末テストで何とか30点だった理科のテストを50点まで持っていこうと、それだって夢にもなると思いますし、もっと大きな夢で、イチローのような、先ほどのいろんな夢は私はあってもいいと思うんですけど、まず、少なくとも自分でそういうのを掲げられるような子にならないと、自分で掲げられるようにならないと、多分その子って一生つらいんじゃないのかなと思うんですね。

私も思うんですけども、義務教育まででその子が終わるわけじゃなくて、その子が社会人になって、そこから何十年か働いて、例えば家庭を持たれたりとか、いろんなことを経験された後で振り返って、あの教育はどうだったんだろうということで多分本来なるんだと思うんですね。何かそういうのを考えると、まずやっぱりちゃんと自分で夢が持てるように、多分我々がそういう環境整備をしていかないと、その子の将来も何か大丈夫なのかなというのもありまして。

**【稲垣委員】**

これはすごくいいと思います。これを何か、夢にもいろいろ種類があるよとかというのを見せてあげるとか。

**【市長】**

ありましたよね、昔だったらいろんな夢を書きましたよね。お嫁さんになりたいとか、そういうのもありましたし、今ではお嫁さんになるのも大変ですよ、今、考えてみたらね。夢も、だから、昔と変わってくるのかなと。

**【教育長】**

関連していいですか。今の夢の話なんですけど、子どもたちを見ていますと、なかなかそんなに私もたくさんの子を見ているわけじゃないですけども、やる気を出していった子というのはわりと、それは夢もそうなんですけれども、道筋とか見通しを持つというんですか、いわゆるスモールステップの目標みたいなのがちらっと光ったときにぐっと伸びていくような、それが最終的に大きな自分の夢に向かっていくと思うんですけども、ちょっと刻んであげないといけないのかなという気がします。今の子どもたちに夢を持ちなさいと言っても、今、米田委員がおっしゃったように、よく卒業式に一言言って卒業していくというのがあるんですけども、それはちょっと絵に描いた餅に終わってしまうことも多いようなこともわかっている子どももいますので、もうちょっと細かな目標を作ってやれるといいなど。そうすると、やっぱり先生の役割というのは大きいと思いますし、ちょっと言った一言がその子にやる気もつくし、逆にしらけた感じになってしまうときもありますので、すごいそのことが大事かなと思いますのと、今、市長さんがおっしゃったように、義務教育でゴールまで行くんだという考え方もやっぱりなくさないでだめだと思ひまして、生涯学習という以上、例えば小、中、高まで行っても、そこで20%ぐらいの学習なんだと思うんですよ。それから後、どんどん順に積み重ねていくと思いますので、そのときに何が一番大事かなと思うと、自分は努力すると、今、できるできないという話がありましたけれども、努力するとできるとか、チャレンジしていくというような、そんな思いみたいなものをつけてあげることが非常に大事かなというふうに思うんですね。それは学習面でもそうですし、体力面もそうですし、それこそ隠れたカリキュラムではないですけども、自分は誰かと誰かをひっつける力がすごいまいんだとか、チームとしてやれるときの何か起爆剤になるとか、そんな自信みたいなのもできると、子どもたちというのはすごい変わっていくんじゃないかなと思うんですけどね。それについても、教師の役割は大きいというのは思います。

#### 【伊藤委員】

ちょっといいですか。私は県立で働いていて、義務教育との違いが非常にわかったのは、義務教育は一応みんな基礎的なことをきちんをつける。自分は専門高校でしたから、もうアメリカではそんな学校があるんですけど、ショッピングモールスクール。だから、県立ってショッピングモールなんですね、専門、専門の高校があつて。そういうふうを選べるから、そこで再チャレンジしている子はおるわけですね。だから、そういう意味では、アメリカはそんな学校を1つの学校につくっておるんですけどね。やっぱり自分は1校目の校長のときは、そこは本当にショッピングモールスクールのような学校をつくったんですけど。

義務教育は基盤をつくる場所という意識はみんな持たないといけないし、高校ぐらいから目標も。だから、ちょっと始まる前に基本理念で、教育長の言った、夢を持ち、その夢に向かって、ここの次のところに、「目標を立て努力をする」という一つあると。夢だとどうしても漠然として。

#### 【市長】

どうしたらいいかわからないということですね。

#### 【伊藤委員】

ええ、イチローとかそういう話になっていくけど、ちょっと目標となると、教育長が言われたように、段階的に解決してという、そういう言葉が1つ入るだけでも、それで自立ということもここでもちょっと言っていることもあるし、そうするとちょっといいよねと思うんです。そんなものも1つやなど。私も夢という言葉はあまり好きじゃないので。にんべんをつけると「儂い」となりまますからね。

【市長】

なるほど、人の夢は儂いと。

確かに時代的にも何かP D C A的な発想で、自分で何をしようって計画を立てて、目標を立ててそれを着実にこなしていくことで夢に近づいていくみたいなことなんですかね。

【伊藤委員】

それで後で夢が描けてもいいし、先に目標があってもいいという気がします。

【市長】

松岡委員。

【松岡委員】

周りに大学生がいますけれども、自分の能力、もっとあるのに、やろうとしないという学生が多いですね。自分はここまでというふうに、無理という話とつながると思うんですけども、もう少しチャレンジしてもいいのになというのを感じますね。

それから、教育学部ですから、入ってくる学生は将来学校の先生になりたいですというのが100%であるとうれしいんですけど、そうではないですね。学校の先生もいいかなというふうな人もいますし、将来何になるかはわからないけれども、大学に入ってきましたという、その最後のほうの学生は、よく勉強して入ってきたなと感心するんですね。目的なしで勉強していたわけですよ。今やっている勉強が将来何の役に立つかというのを意識しないで、100点を目標にしてやったと思うんですけども、そういうことだとひずみが生まれて当然かなと思うんですね。市長さんがおっしゃるように、夢を持ちという、将来の夢、それを持ってその目的のためにやっていくというのであれば、意外と頑張ればできるやんかとか、そういった自信にもつながっていくと思うんですけど、その辺がやっぱり大事なかなと思うんですけどね。

【市長】

頑張る能力だけあっても、その先が見えていないと、どこかで折れますよね、それは。テストで100点はとれるけれども、じゃ、何でやってきたのかということに立ち戻っちゃうと、大人になるときに折れてしまうというのもあるでしょうね。

【松岡委員】

目的があると、理解の深さが違ってきますので。

【市長】

そうでしょうね。なぜそれを学ぶのかということがわかりますよね。

【教育長】

今の学校現場を見ていますと、私、初めに言いましたように、二極化がかなりあるなど。これは貧困の連鎖とか子どもの貧困というところがかなり話題になって、この4月から法律もできたんですけども、学校現場でも、かなり経済的格差というのと学力格差、できるだけそれを防ぐように職員とも話してきたんですけども、端的に二極化は避けられないなというのがありますので、マイナスのほうの子どもたちにとっては、夢を持ってと言われても先が暗いよねというのがありますので、その対策をやらないといけないなと思うんです。

【市長】

貧困の連鎖というのがものすごく進んでいますからね、そこをどうするのかというのが学校教育の中でも非常に大事ですし、あまり見えにくいといえますかね、子どもたちは特に見えない部分でするので、そのあたりをどうしていくのか、本当に大きな課題だと思いますね。

【教育長】

これは福祉のほうとか、あるいは全庁的にやってもらわないといけないかもしれませんが、かなり深刻な状況にはあると認識しています。

【市長】

これを断ち切ることこそ、それこそ行政の最も大事な仕事ではないかなと私も思っていますので。

【米田委員】

給食の質と図書費だけは落としてほしくないです。家で食べられない、家で本が買えなくても何とかなるというのが、理想論かもしれないですけど。

【市長】

給食でしかまともな栄養がとれない家もあるかというような報道も。

【教育長】

実際にやはりありますね、現場のほうでは。

【市長】

あるんでしょうね。

【伊藤委員】

食べてない子も多いですね、朝を。

【市長】

これは2パターンぐらいありそうですね、何か忙しくて食べないという子もあるし。

【伊藤委員】

お金がなくてということもあるでしょうし。

【稲垣委員】

大綱の中に、夢を持つ、その夢に向かって努力する子を育てますというのに私もすごく感銘を受けて、ぜひそれでいきたいなと思ったときに、もう一つ、継続性というのも何かどこかに入るといいのかなと思います。大抵事件が起こると、いや、何回目だから、児相が行ってどうのこうのとか、回数が問われたりもしますし、あと、さっきの貧困に関しても、これはやっぱり子どもは変わると言うんですよね。実際、ある教頭先生が、本当に半年間、就職試験で挨拶もできなかった子に毎日挨拶に来てねと言ったら、本当にその子、挨拶に来て就職も決まったとかというんですよ。やっぱりそれができるのは学校現場ですし、教育者の本当に真髄だと思うので、さっき言ったように、生涯学習的にも努力する子、継続的に本当に育てるんだという、何か意図もぜひあるといいかなと思いました。

【市長】

今もおそらく教育現場だけでも危ないだろうというのがありますし、生活困窮者自立支援法という法ができて、ある意味、我々市長部局のほうでも、そういう生活保護になる直前の方々はどう対応していくのかという部分で、ある程度学習支援というのもしていかなくちゃいけないかと思って、より広いメンバーというか、いろんな方にかかわってもらって何とかこの負の連鎖を断ち切りたいなどは思いますね。そういう意味ではもうここで終わりでいいだろうじゃなくて、その後、しっかり続けていけるような体制をとりたいですね。

【稲垣委員】

そうですね、そういう引き継ぎも大事でしょうし。負の連鎖じゃなくて、本当に何か言い方を、桑名市なりのプラスの連鎖みたいなものを何か、そういう言葉が入ってほしい。

### 【大橋委員】

よろしいですか。夢というのは、見るものだと。見る夢というのは、私は大事だと思うんですよ。考えてみれば、私が教師になった頃に新幹線ができたんですよ。江戸まで行くのに何日間かかっておったものが何時間になっちゃった。夜行で東京まで行くという、そういう時代から、今は2時間半とか、びっくりするような時間で江戸まで行けるんだというような感じで。テレビでも、昔はこんなに分厚ったのがこんなぺちゃんこになって、今は紙みたいなテレビもある、そういう時代になってきた。私は努力も何もしなかったけれども、夢は実現している、月まで行けるような時代に。だから、これから子どもたちが描いた夢は、バーチャルの世界で自分が夢を描いて、その世界に浸っているのも1つだと思うんですけど、浸り過ぎると、いわゆる不登校になったりして、自分の夢だけの中の世界に入るので、それは持つだけでいいんじゃないかなと思ったんです。

ドラえもんがはやった頃に、子どもたちに自習の時間に作文を書かせたんです。もしあなたが好きなものを1つ持って行って、1つですよ、今から千年昔、当時は1900年代ですから、900年代、平安時代になるんですけど、平安時代にいて、自分は20世紀の人間だよと証明できて、みんなから信頼されるにはどうしたらいいかという作文を書かせたんです。そうすると、変なことを言うわけですよ。時計を持って行って、時計が、時間がどうのこうのと言ったって、そんなもの、全く自分が20世紀の人間であるって証明できない。最後に作文をみんなで読んで聞かせて、勉強していないと損だろうと。20世紀、千年昔の人にばかにされて、生き残るためにはどうしたらいいかといったら、やっぱり勉強だよ、基礎、基本だよと。そこから基礎、基本さえしっかり身につければ、後は幾らでも伸びていけるんだよと。だから、基礎、基本はしっかりやりましょうと。英語だったら、中学生用の英語の単語の辞書を全部暗記するぐらいのことをしましょうよと。そういう話をして終わったので。自分なりにもいろんなことを試みましたが、やっぱりそういう実行力のある子どもを育てていくというのが小・中だろうと。

### 【市長】

今、私も聞いていて思ったんですけど、夢にせよ何にせよ、言葉は大きいんですけど、おそらく勉強でも、例えばスポーツでも、何か自分で目標を掲げてそれにチャレンジするというのを成功体験というか、自分の中の体験で義務教育の中に置いておけば、その後、いろんな道に羽ばたいていくときに、おそらくそれが有効になってくるというか、これに向けてこうやって頑張ればいいのかとか、こうやって目標を立ててやっていこうとか、そういうのができてくると何にでも伸びていく子になっていくのかなと、今、聞いて思いましたね。勉強は大事です、少なくとも、まずそういう意味では。基礎の部分で何かそういう、何でやるのかみたいな部分をちゃんと自分で考えた上で、その努力、勉強をするというような子になるといいのかなと思いますね。

### 【松岡委員】

何か形勢不利のようだから言いますが、私は夢という言葉は好きです。市長さんのおっしゃるのは、アメリカンドリーム的な意味合いかなと思うんですけど、出るくいは伸ばしましょうと、それから、何か出てこないくいは引っ張り上げてやりましょうとか、そんなふうな教育があっているのかなというふうに。そもそもエデュケーションというのは、エデュケートというのは人を引き出すという、人の能力を引き出すということなので、それにつながるような言葉で私は好きです。

### 【市長】

ありがとうございます。

### 【伊藤委員】

この前、私はある高校で先生方とちょっと討論することになって、そのときに、先生たちに、子どもになぜ学ぶかということをお話しますかという質問をしたんですね。そうすると、なかなか答えが出ないですよ。やはりそんなところが、例えば簡単に言えば、いいところに就職するとか豊かに暮らしたいとか、それは言えるんですけど、本当にそうなのかという、そのもっと前に何かあるだろうと。それは具体的に結果として出てくることであって、なぜ学ぶかということが義務教育のときに、先生方が自分が先生になるために勉強してきただけではやはりだめなわけですよ。やっぱりそれを一度みんなで、学校でそれぞれ話し合ってもらったりすることってものすごく大事。意外とわかっているようでわかっていない。一番最初に大橋委員が言われたように、やっぱり世の中をきちっとつくっていくという、あるいは自分がその中で生きていくために世の中をきちっとつくっていくという、そういうことが学ぶ一番の前提だと思うんですね。それがわかっていないのに、例えば大企業で働きたいとか何々だからというふうになってしまうと、自分は学ばなくてもいいやみたいなことになってしまうので、そういうところは大事なかなという気がしますね。

#### 【市長】

私もそういうときは、社会をよくするためにとか、そういうものが1つあって、その上で自分たちは何をするのかという、そういう方向の考え方で自分たちの努力ができる子になれば、それはすばらしい社会になっていくと思いますし、それがすぽんと抜けて、ええ会社に入りたいとかお金を稼ぎたいとか、そういうことがメインになってきていることこそが、先ほど個人主義というのでも出ましたが、その最たる部分なんでしょうね。そういう意味では、おそらく今だと、親と学校の先生以外にいろんな人と会うという経験すら少ないと思いますし、その中でより多くの大人に教育という現場にかかわっていただくということが非常に求められているのかなと。やはり子どもたちがどれだけいろんな大人と接するかというのは非常に大事なことだと思いますので、そこはちょっと我々としてもしっかり考えていかないといけないと思いますね。

#### 【教育長】

もう一ついいですか。市長さんがおっしゃっていた、先生の数も含めて、そういう今の社会のために尽くそうというような子どもたちにしていくためにも、やっぱり先生のかかわりって大事やと思うんですが、ほかのいろんな大人の人にも入っていただきたいんですが、核になるのは教師やと思うんですね。その中に、今、先ほども伊藤委員でしたか、大橋委員がおっしゃったように、いわゆる知識だけでなく、コツとか勘みたいなのが先生には要るのではないかと。何か子どもたちが赤信号を発しているなというときに気付くような感性というのがやっぱり要ると思います。

ただ、これは非常に重要な桑名のテーマだと思うんですけども、今、数だけ言いますと、中学校の先生が大体450人ぐらい、教職員全部含めてです、養護教員さんとか非常勤の人も全部含めてですが、小学校は800人ぐらい、あわせて1,200人ぐらいの先生がいるんですけど、その中で、小学校は大体45%が35歳以下の若手なんです。中学校は40%ぐらいになっていますので、確か、学校教育課長、それぐらいでしたね。

#### 【学校教育課長】

そうです。

#### 【教育長】

そういう状況ですので、その先生たちに、今まではわりと先輩の先生が伝承しているというか、それこそアフターファイブも一緒に付き合っ、そこでいろんなことを話しながらやっておったんですけれども、今はあまり付き合いがなくて、それぞれ家へ帰るという先生のほうが多いんですよ。

ね。その中でどういうふうに若手の先生たちに今の勘とかコツというのが伝承できるかというのは非常に大事で、たまたま3月まで一緒にやっておった若い先生たちは、少し言うと、ものすごく吸収力があるんです。やる気もあるし、子どもたちを何とかしたいという気持ちもすごくある。大体どこの学校の先生もそういうふうだと思うんですけども、ただ、迷ってみえる。ただそこに先輩の数が少なくなっていますので、そのあたりが相当課題かなというふうに思っているんですね。そのあたりで少しご意見をいただけるとありがたいなと思うんですが。

**【伊藤委員】**

ある高校、先ほど言った高校なんですけど、そこでは若手だけでサークルみたいなのをつくって、いろんな議論をして、ある問題ができればベテランに来てもらって話し合うという、それを計画的にやっている。私はその中でなぜ学ぶかというのを、君たち一度若者だけで議論しなさいと言って、それで、年度末に私がその答えを。だから、宿題を出してきたままで放っておいてあるんですけど、やっぱりそういうことが、まず若者だけで悩みを打ち明けたり、あるいは何が課題かというふうにしないと、最初からだトップダウンになってしまう。やっぱり自分から学んでいかないと、そんなことが大事じゃないかな。

**【教育長】**

OBさんとかOGさんもやっぱり使っていきたいですね、そこに。

**【市長】**

そうですね、その経験を生かしていただかないとね。

**【伊藤委員】**

だから、私はOBで。

**【稲垣委員】**

私、それに対しては、私の中で1つの持論があって、全てやっぱり学校教育にないのはフィードバック機能だと思っているんですよね。本当にいかにフィードバックをしやすい仕組みをつくるか。それは、さっきのフリーの先生がベテランの先生だったら、15分その学校を見ればわかると思うんですよ。例えば、ここはちょっと窓を閉めるだけで集中力が高まるよとか、このにぎやかな子を、この子の席をここに変えるだけでとか、先生の声をもうワントーン上げればうまくいくよとか、ちょっとしたそういうコツ、勘みたいなのって、ベテランが15分見れば、多分言えるようなフィードバック機能だと思うんですよね。そういうのを定期的に仕組みとして持つとか、やっぱり学校の先生はどうしても聖職なので、フィードバックしづらい、してもいけないとか、もらっても失礼に当たるような文化があるので、それは文化を変えていくというのが、仕組みとしてこういうのが入るといいなというのは私の持論として思っていますが。

**【市長】**

OBの話とかそういうことは、授業をしなくても、そういう学校運営のコツとかノウハウみたいな部分はお持ちの部分はあるんでしょうね。

**【市長】**

もうよろしいですか、皆さん。

まだいろいろあるかもしれませんが、たくさん貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。限られた時間でしたので、まだ十分じゃないと感じておられると思います。教育委員会の会議は毎月1回開催されておられるということでございますので、その中でも大綱の作成に向けていろんなご意見を交換していただいて、意見をまとめていただくというのでもいい方法なんじ

やないのかなというふうに思っています。

今後の予定は、本日いただいたご意見をもとに事務局で素案をまとめまして、次回の総合教育会議でお示しさせていただき、また修正を加えて今年度内に取りまとめたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

では、事項書の4、その他ですけれども、事務局から何かありますか。お願いします。

**【総務部次長兼総務課長】**

先ほど市長からもお話がありましたが、この会議の今後の予定につきましてご案内をさせていただきます。

今年度につきましては、本日を含めて3回を予定しております。第2回目が11月ごろを予定させていただいております。日程等詳細につきましては、改めてご連絡をさせていただきます。

それで、第3回につきましては、またそれも2月ごろを予定しております。それで、1年間のこの会議の総括と次年度に向けた協議ということは今現在考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

**【市長】**

ありがとうございます。

今後の予定についての説明がありました。第2回が11月ごろ予定ということでございます。次回、11月の会議で事務局がまとめた素案を協議していただきまして、最終的にご決定いただくというような方向に進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

これで本日の協議事項は全て終わりました。

これをもちまして、平成27年度の第1回桑名市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —